

6
ダニエル
聖徒伝 215

従うべき 真の権威者

ダニエル書6章

獅子の穴に落とされたダニエル

アウトライン

0. イントロダクション

I. 陰謀 6章1～9節

II. 迫る危機 6章10～16節

III. 救いと賛美 6章17～28節

IV. まとめと適用

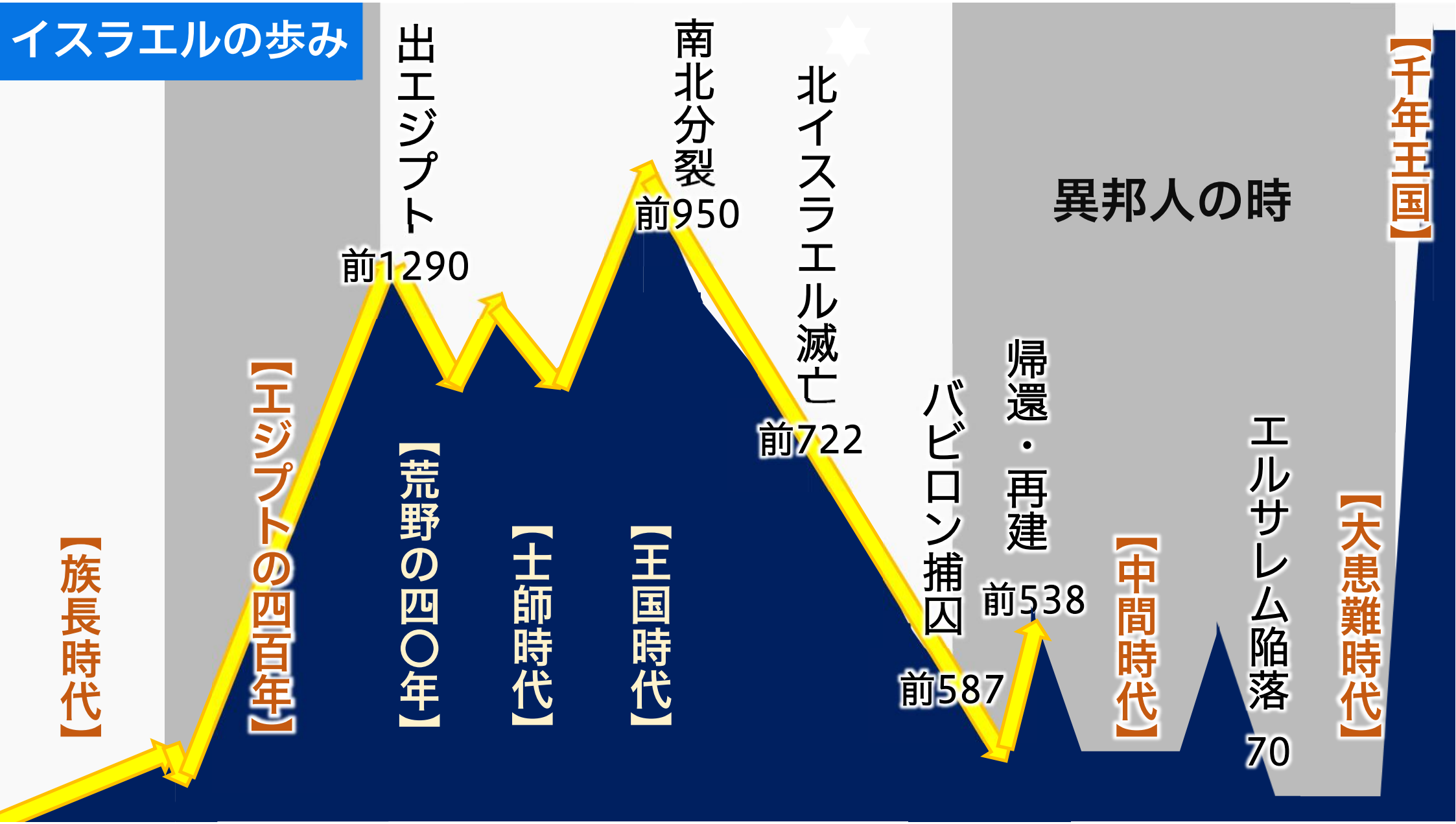
史上最大の権威者に仕えよう



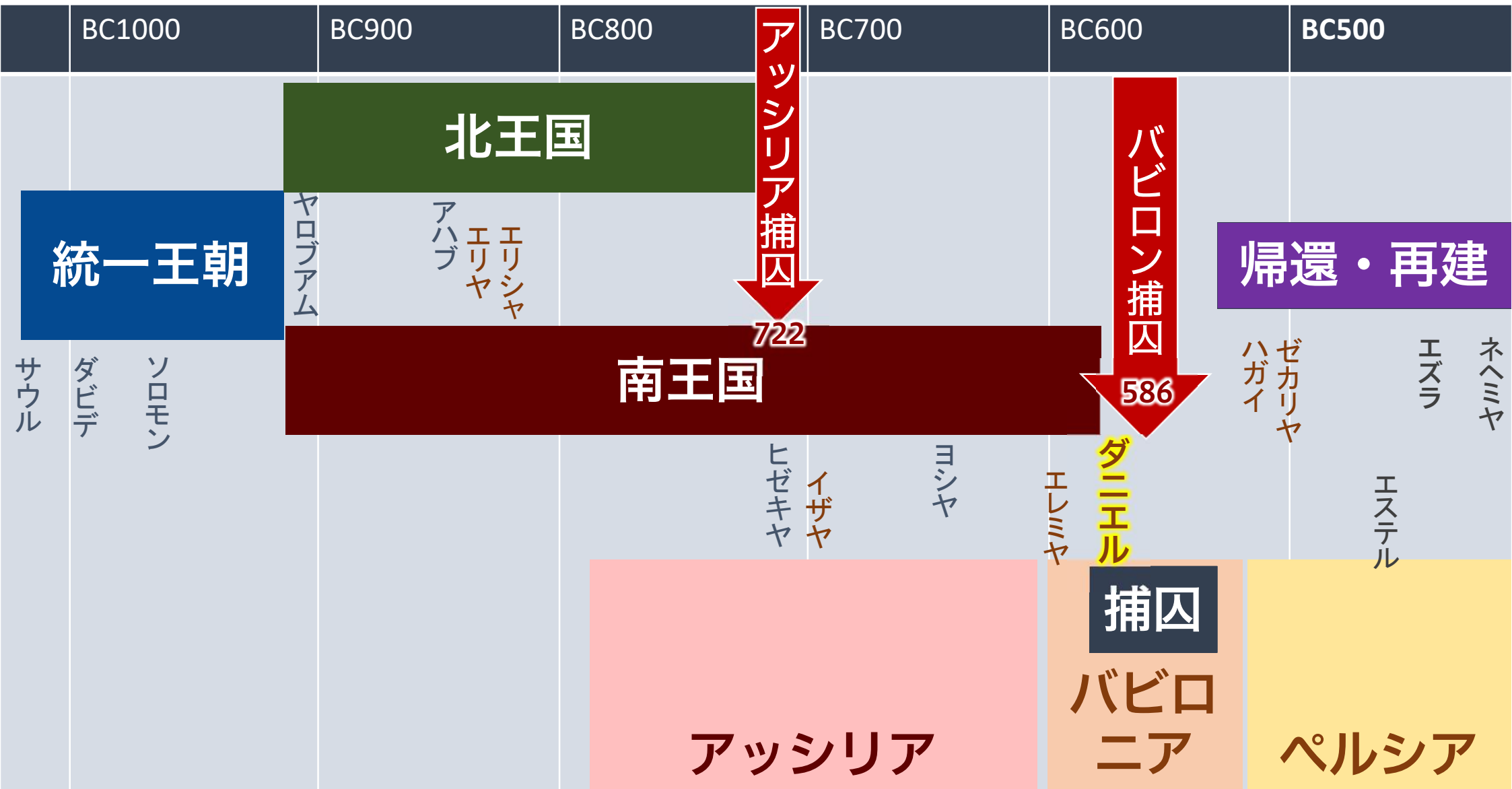


0. イントロダクション

イスラエルの歩み

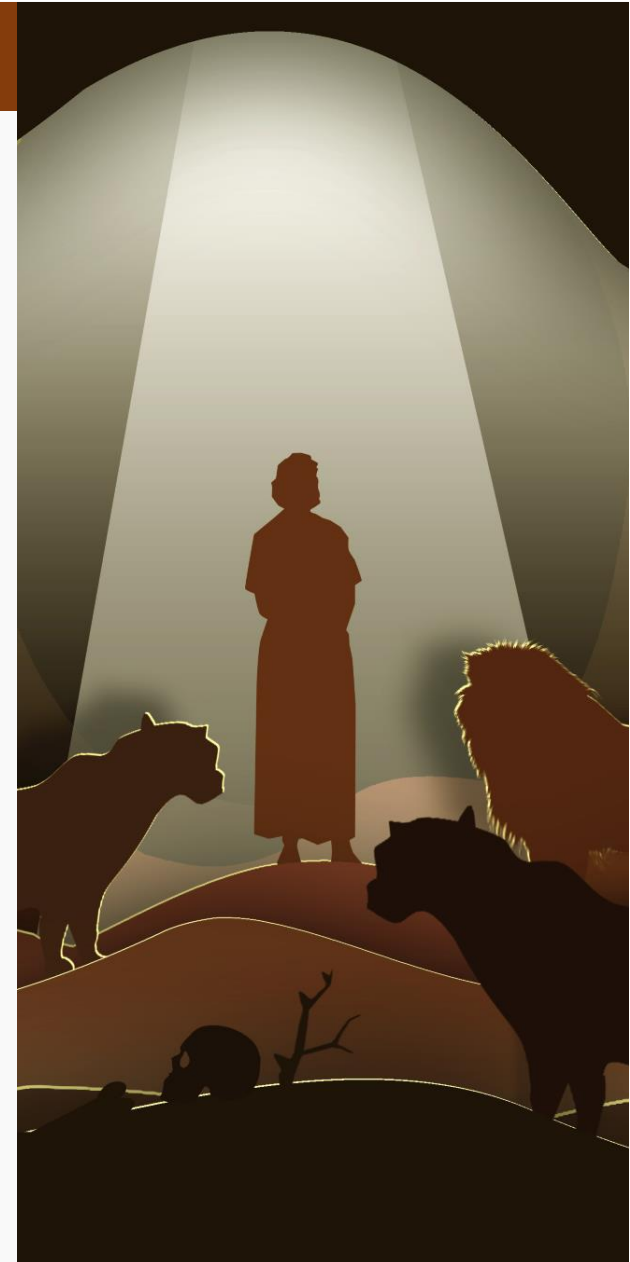


イスラエル王国史



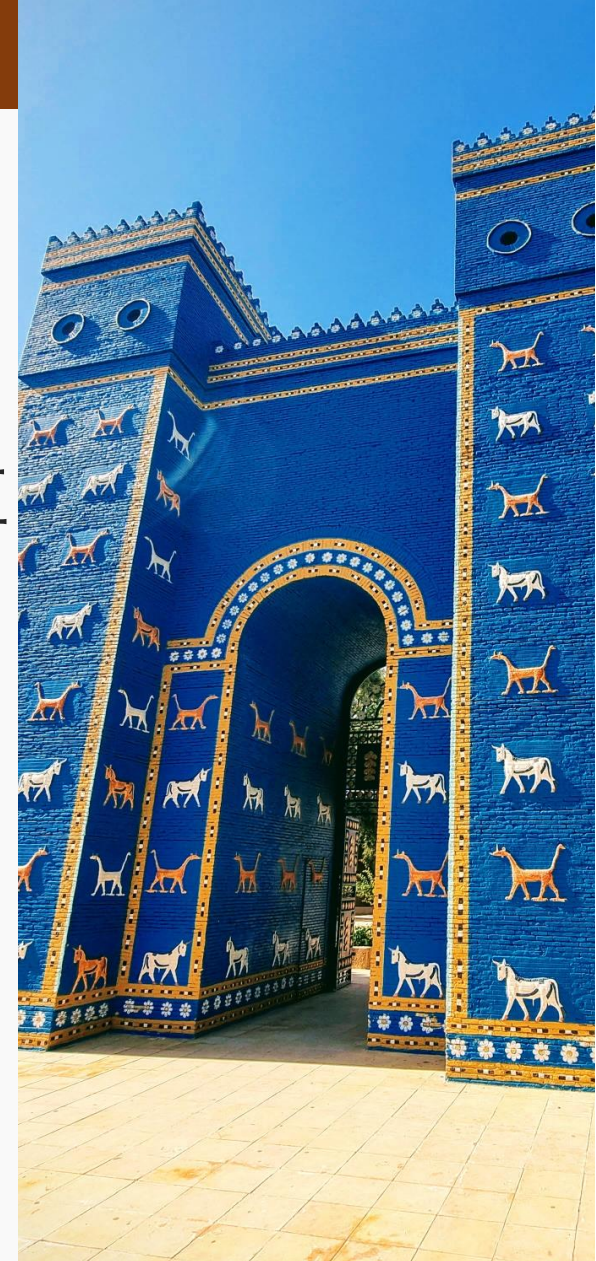
ダニエル書について

- 著者 …ダニエル(神は我が裁き主)
- 場所 …バビロン
- 時代 …バビロン～ペルシャまで(約70年間)
- 構成 …1～6章は歴史、7～12章は預言が中心
- 言語 …1章 ヘブル語
…2～7章 アラム語(異邦人が対象)
…8～12章 ヘブル語(イスラエル対象)

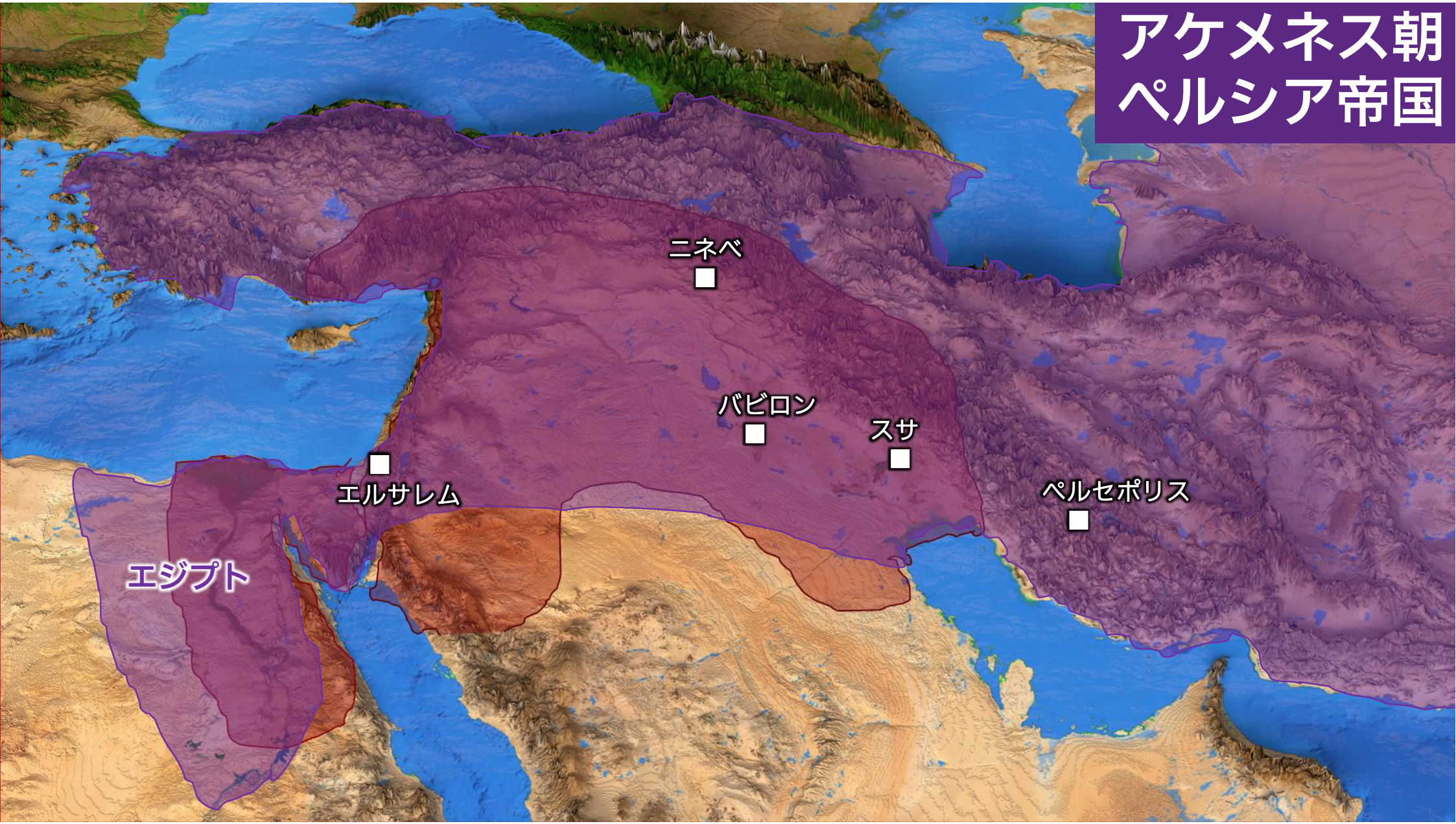


前回までのあらすじ

- 70年に及ぶ捕囚期間を通して、ダニエルは、バビロンで王に仕えた。
- イスラエルの神に立ち返ったネブカドネツアル王の後、バビロニアには、混迷を深めていった。
- ベルシャツアル王は、イスラエルの神を侮り、バビロンは、その夜の内に滅ぼされた。
- バビロンの新たな支配者となったペルシアの下、ダニエルは、引き続き重臣として仕えた。



アケメネス朝 ペルシア帝国



エジプト

エルサレム

ニネベ

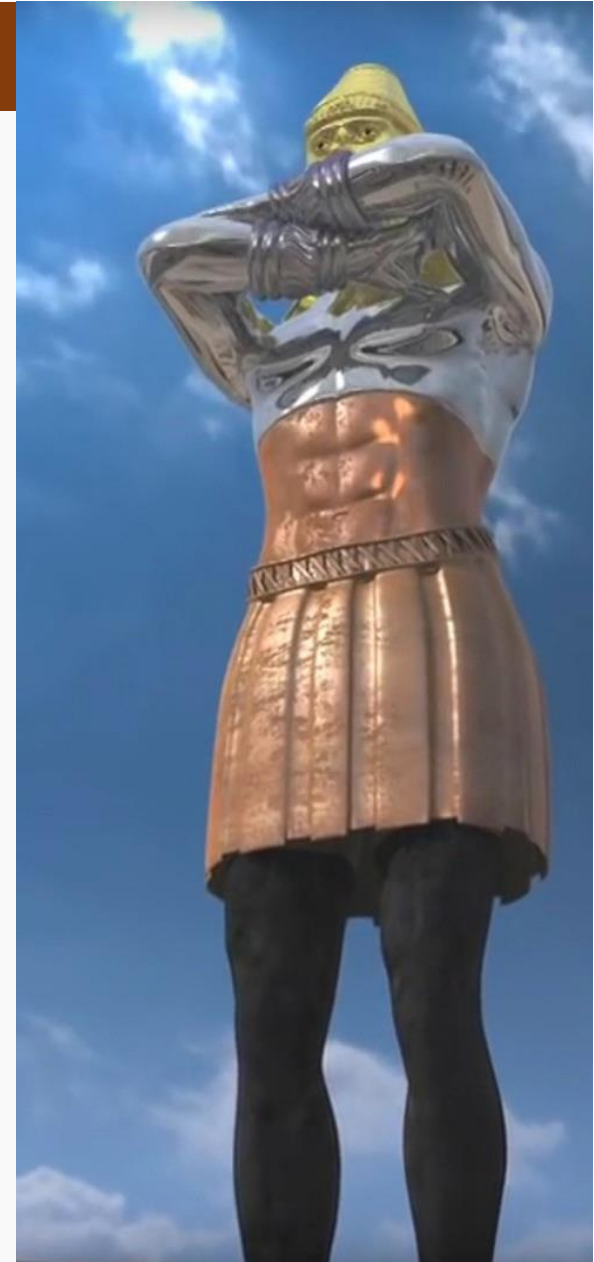
バビロン

スサ

ペルセポリス

バビロニアからペルシアへ

- 絶対王政のバビロニアでは、王の命令が絶対。
- キュロス王のペルシアがバビロンを陥落。
旧バビロニア領を統治したのが、ダレイオス王*。
(*キュロスの叔父。後のダレイオス1世は別人)
 - ➔ 政治機構はそのまま引き継がれた
(ダニエルは、バビロン滅亡直前に復帰!!)
- ペルシアでは、王よりも法に権威があった。
一度定められた法は、王にも覆せない。
 - ➔ 王の権威の低下(金➔銀)





I. 陰謀 ダニエル書6章1～9節

ペルシアのバビロン入場

重用 ペルシアの統治 ダニエル6:1～2

ダレイオスは、全国に任地を持つ百二十人の太守を任命して国を治めさせるのがよいと思った。

彼はまた、彼らの上にダニエルを含む三人の大臣を置いた。これは、太守たちがこの三人に報告を行い、王が損害を被らない*ようにするためであった。

*王の権威に傷がつかないように、
執政の責任は大臣たちが負った。



ダレイオス
王



三人の大臣



120人の太守

陰謀 王の意向と反発 ダニエル6:3~4

さて、このダニエルは、ほかの大臣や太守よりも際立って秀でていた。彼のうちにすぐれた霊が宿っていたからであった。そこで王は、彼を任命して全国を治めさせようと思った。

大臣や太守たちは、国政についてダニエルを訴える口実を見つけようとしたが、何の口実も欠点も見つけられなかった。彼は忠実で、何の怠慢も欠点も見つからなかったのである。

■ 三大臣制から、ダニエルのワントップへ!!

➔ ライバルは妨害工作を試みたが...



ダレイオス
王



総理大臣



大臣



120人の太守

陰謀 共謀者たち ダニエル6:5~6

そこでこの人たちは言った。「われわれはこのダニエルを訴えるための、いかなる口実も見つけれられない。彼の神の律法のこと*で見つけるしかない。」

それでこの大臣と太守たちは、王のもとに押しかけて来て、こう言った。「ダレイオス王よ、永遠に生きられますように。」

*ダニエルの信仰につけ込もうと!!

➡人々にも知られていた、唯一神信仰
“イスラエルの神以外は拝まない”



陰謀

敵対者たちの提案 ダニエル6:7

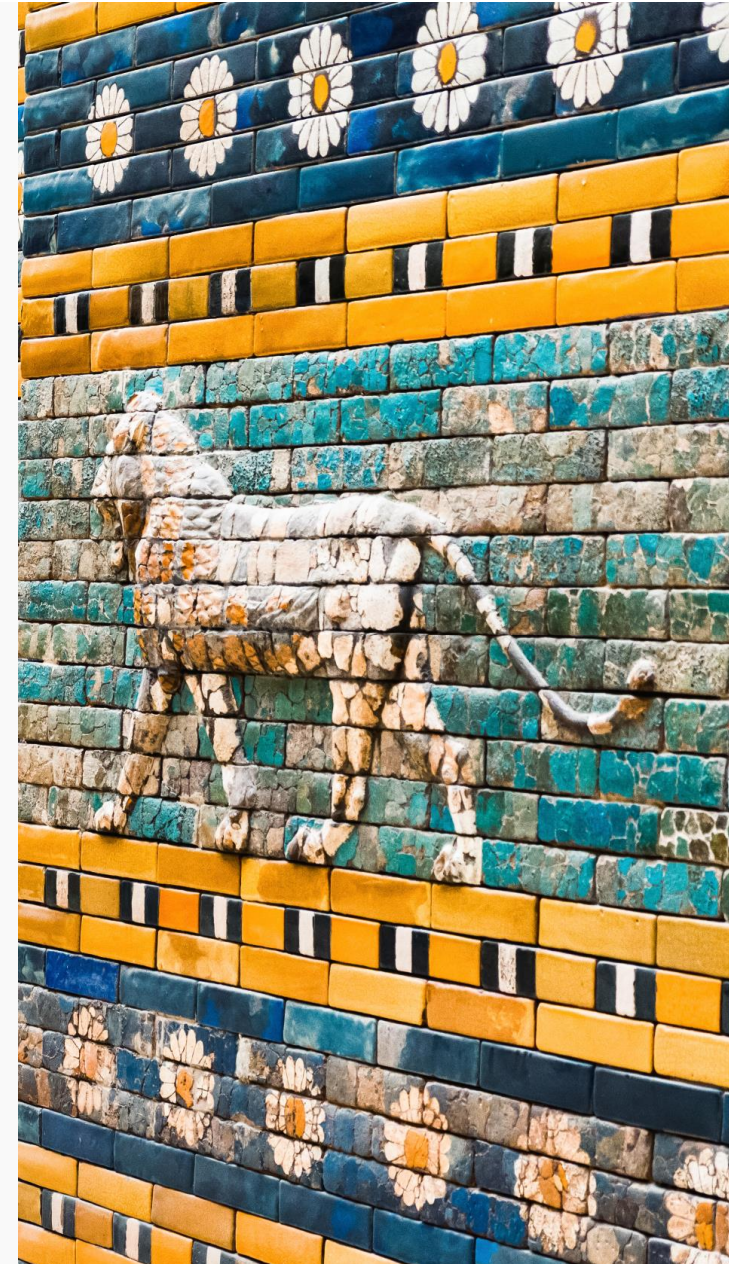
「王よ。国中の大臣、長官、太守、顧問、総督はみな*、王が一つの法令を制定し、断固たる禁令を出していただくことに同意しました。すなわち今から三十日間、王よ、いかなる神にでも人にでも、あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子*の穴に投げ込まれる、と」

*ダニエル一人が蚊帳の外

➡信仰の故に孤立。激しい敵意。

*バビロンの権威の象徴(今はペルシア配下)

■ “王の権威強化月間” ➡罰則も強化!!



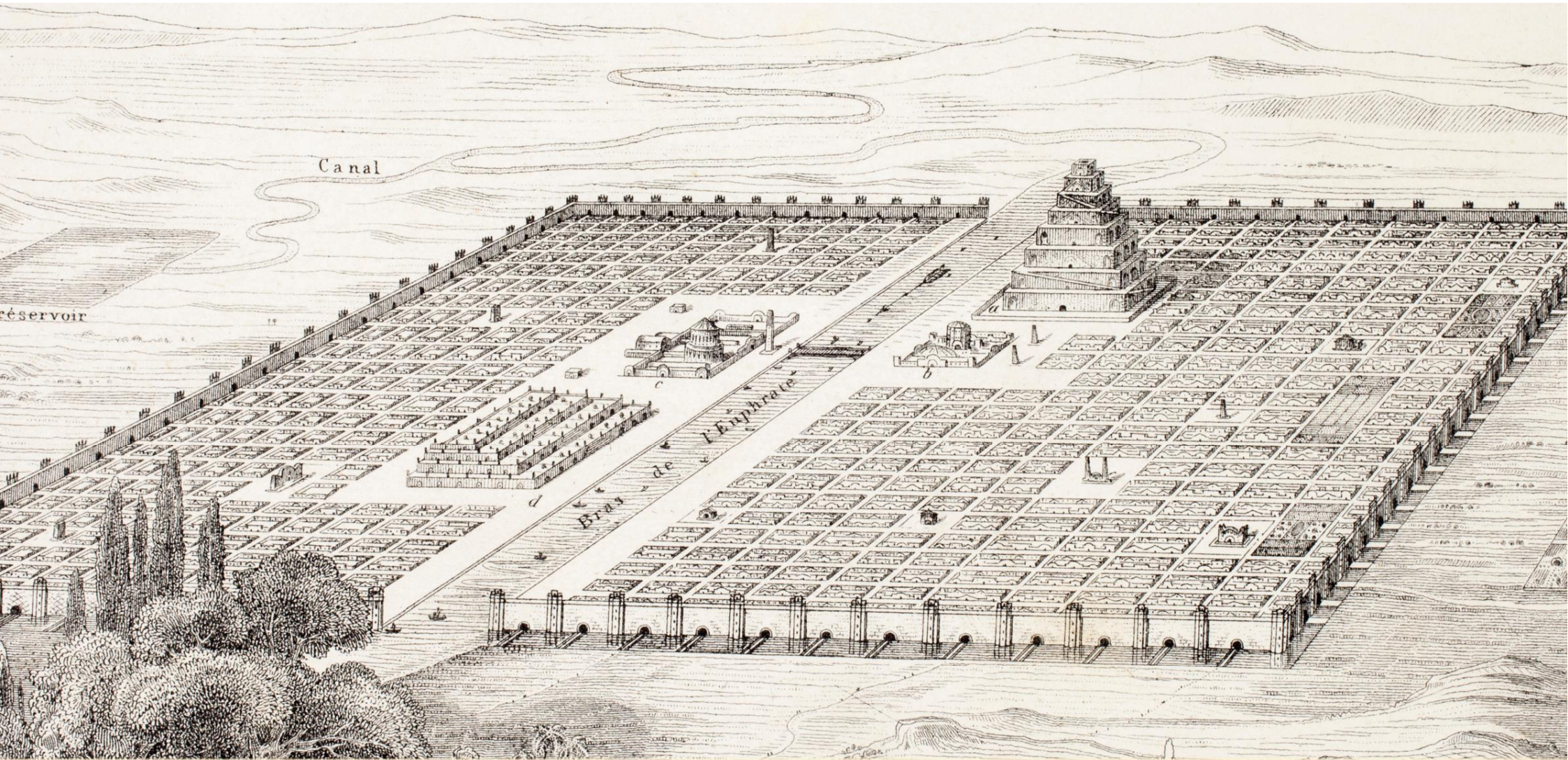
陰謀 王の法令 ダニエル6:8～9

「王よ、今、その禁令を制定し、変更されることのないようにその文書に署名し、取り消しのできない*メディアとペルシアの法律としてください。」

そこで、ダレイオス王はその禁令の文書に署名した。

*王の命によって制定された法は、王にも取り消せない権威を持つ。





II. 迫る危機

ダニエル書6章10～16節

ヘロドトスの記述によるバビロン復元図

陰謀 ダニエルの祈り ダニエル6:10~11

ダニエルは、その文書に署名されたことを知って自分の家に帰った。その屋上の部屋はエルサレムの方角に窓が開いていた。彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。

すると、この者たちが押しかけて来て*、ダニエルが神に祈り求め、哀願しているのを見つけた。

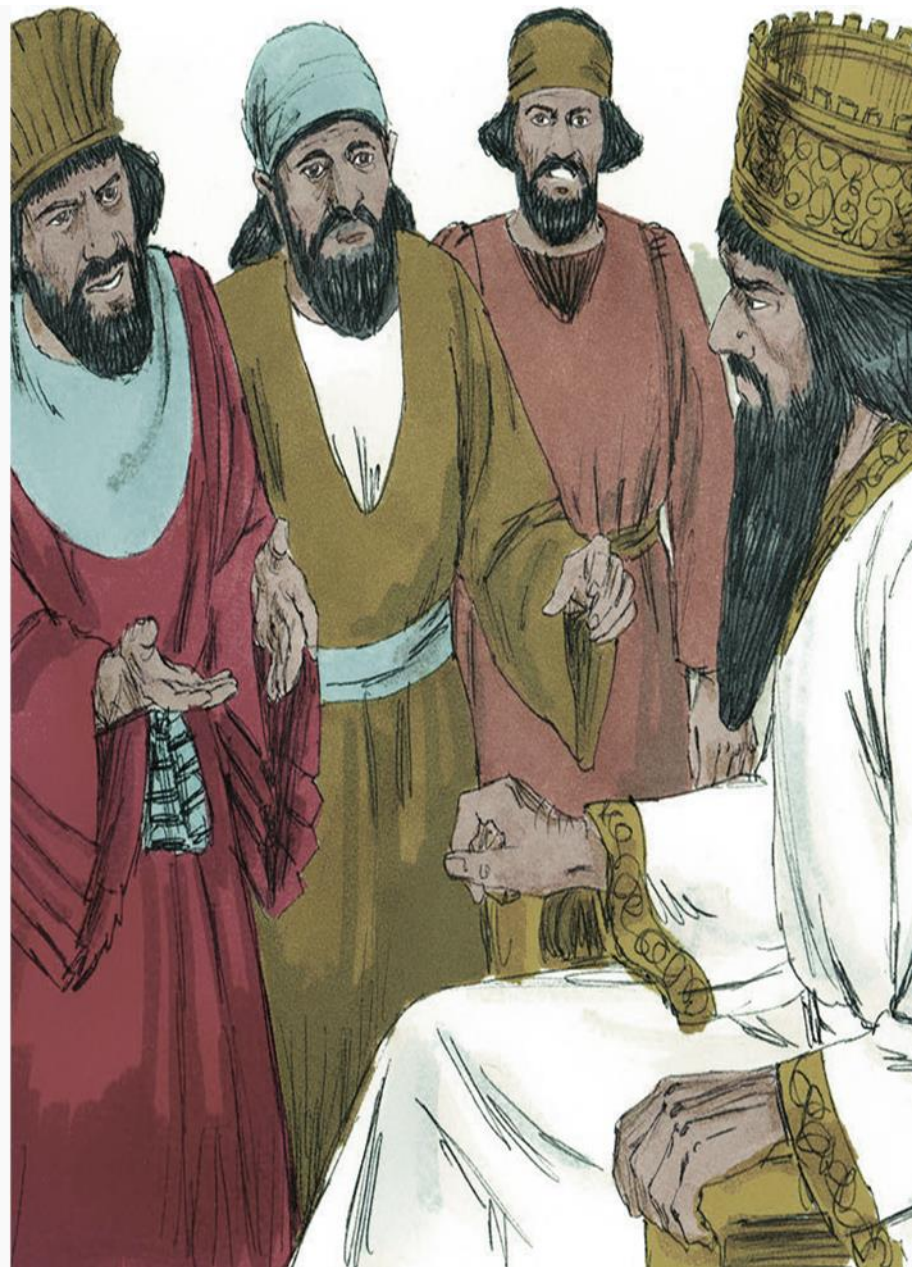
*敵意に満ちた作為は明確。➡本質的悪

■状況を認識しながら、いつも通り祈った。



陰謀 家臣たちの問い ダニエル6:12

そこで彼らは王の前に進み出て、王の禁令について言った。「王よ。王は今から三十日間、いかなる神にでも人にでも、あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれるという禁令に、署名されたのではありませんか。」王は答えた。「取り消しのできないメディアとペルシアの法律がそうであるように、そのことは確かである」

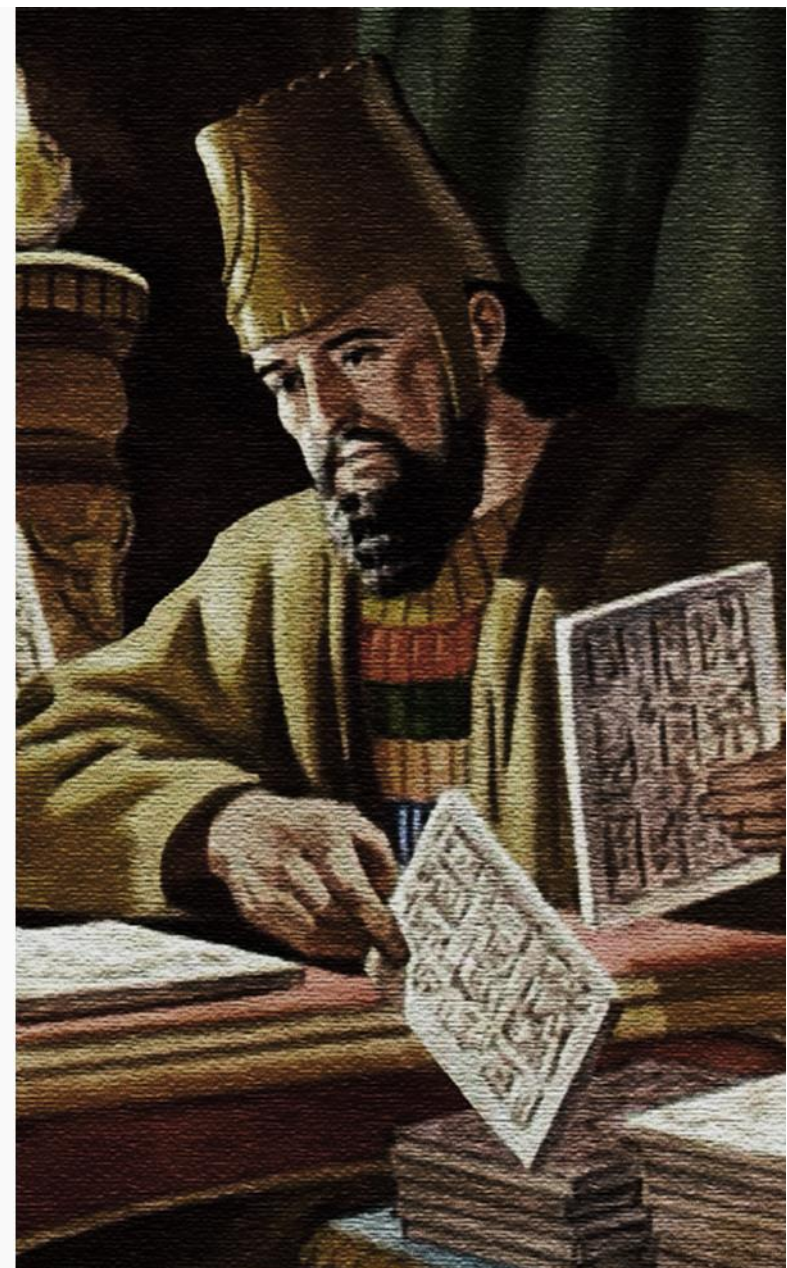


陰謀 告発 ダニエル6:13~14

そこで、彼らは王に告げた。「王よ。ユダからの捕虜の一人ダニエルは、あなたと、ご署名になった禁令を無視して、日に三度、自分勝手な祈願をしております。」

このことを聞いて王は非常に憂い、ダニエルを救おうと気遣った。そして彼を助け出そうと、日没まで手を尽くした*。

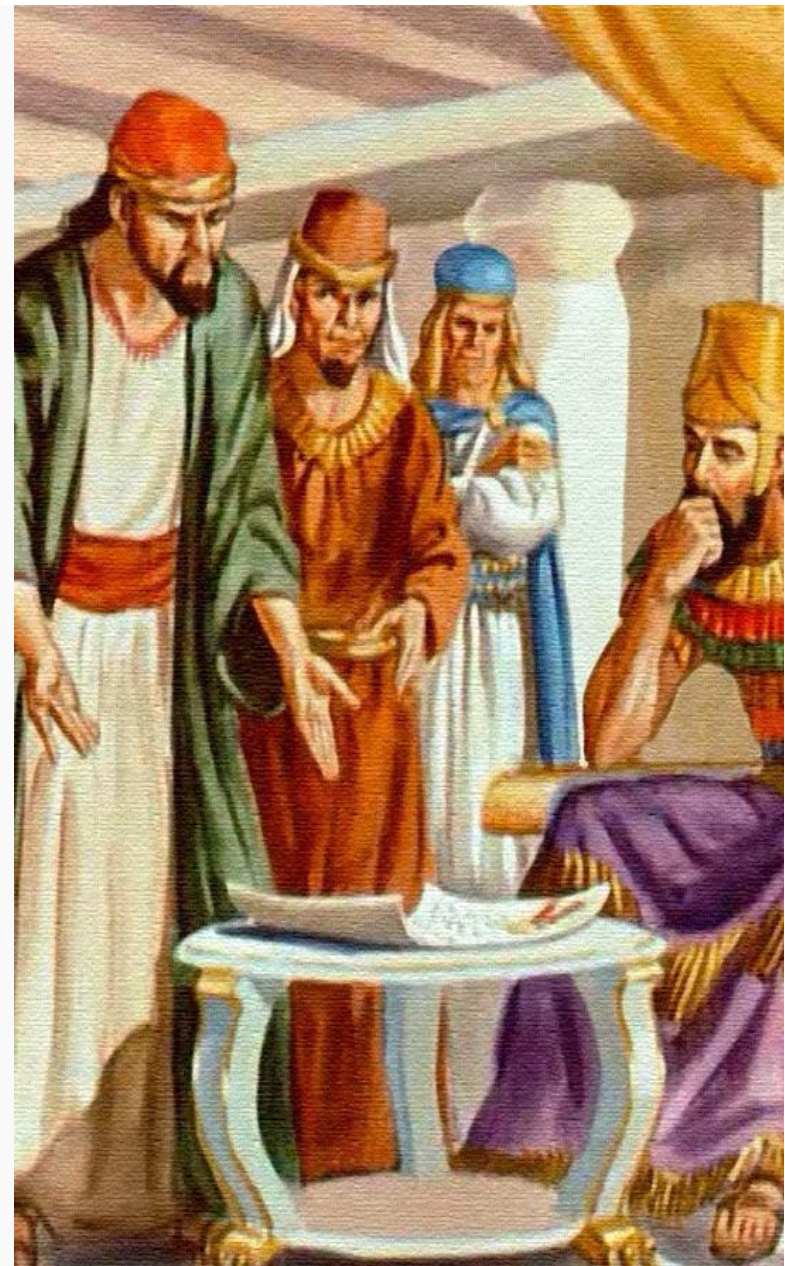
*王は法的な救済の余地を探ったが…。



陰謀 念押し ダニエル6:15

そのとき、あの者たちが王のもとに押しかけて来て、王に言った。「王よ。王が制定したいかなる禁令や法令も、決して変更されることはないということが、メディアとペルシアの法律であることをご承知ください。」

■ 時間切れ。日付が変わり執行の時が来た。



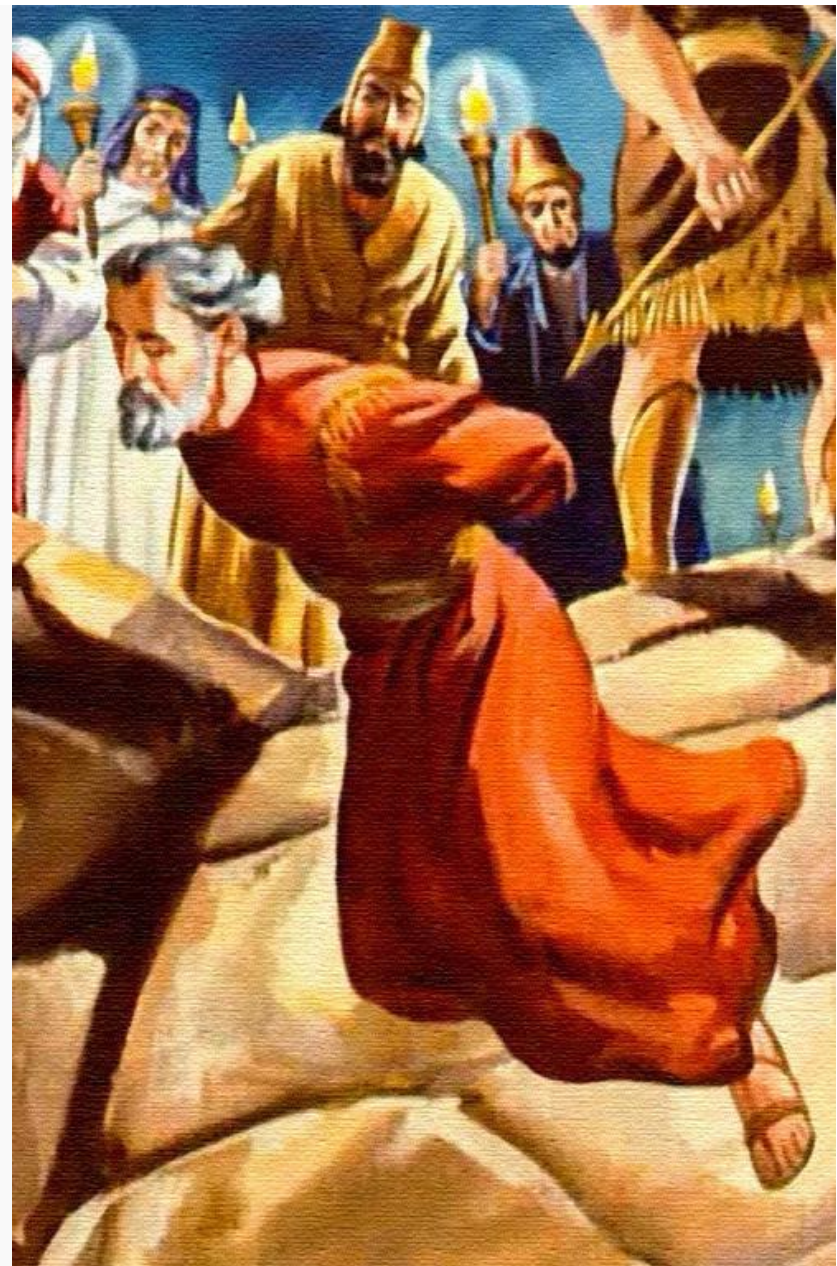
危機 刑の執行 ダニエル6:16

それで王は命令を出し、ダニエルは連れて来られて、獅子の穴に投げ込まれた。

王はダニエルに話しかけて言った。

「おまえがいつも仕えている神が*、おまえをお救いになるように。」

*ダニエルを通して、イスラエルの神に
恐れを抱いていたダレイオス王





Ⅲ. 救いと賛美

ダニエル書6章17～28節

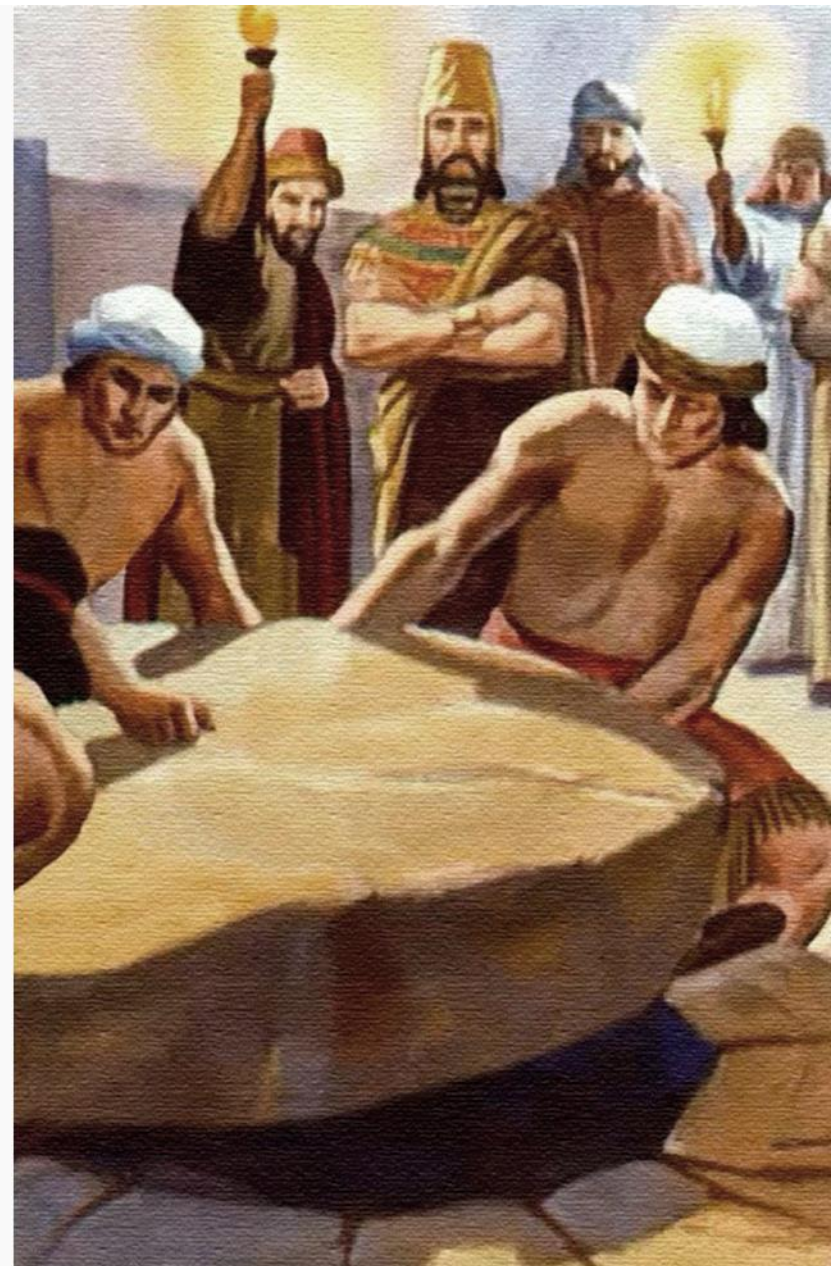
バビロン再現模型

危機 厳重な封印 ダニエル6:17

一つの石が運ばれて来て、その穴の口に置かれた。王は王自身の印と貴族たちの印でそれを封印し*、ダニエルについての処置が変えられないようにした。

* 厳重な封印。誰も手出しできない。

➡ 極めて厳格に刑は執行された!!

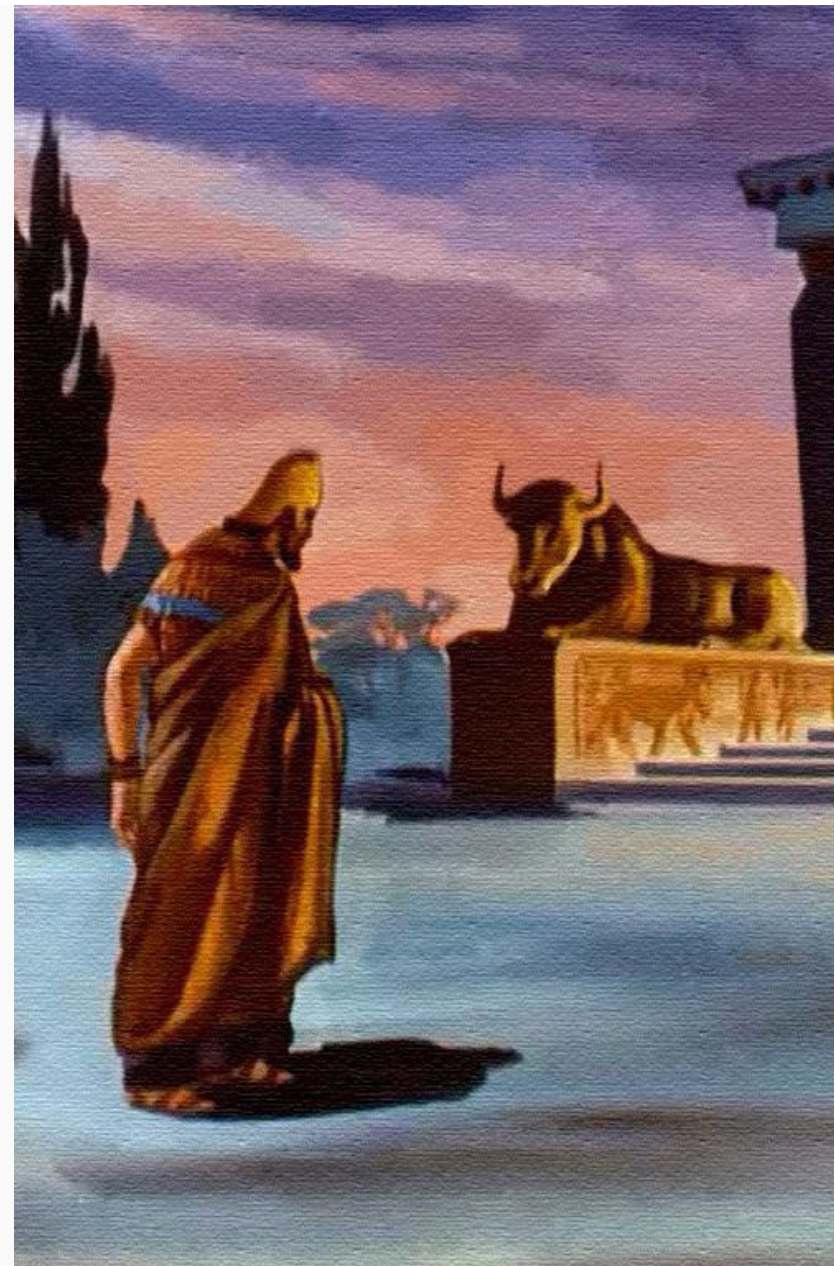


危機 王の祈り ダニエル6:18~19

こうして王は宮殿に帰り、一晩中断食をした。側女も召し寄せず、眠ることもしなかった。

王は夜明けに日が輝き出すとすぐ、獅子の穴へ急いで行った。

- 王がダニエルの救いを祈ったのは、イスラエルの唯一の神か？

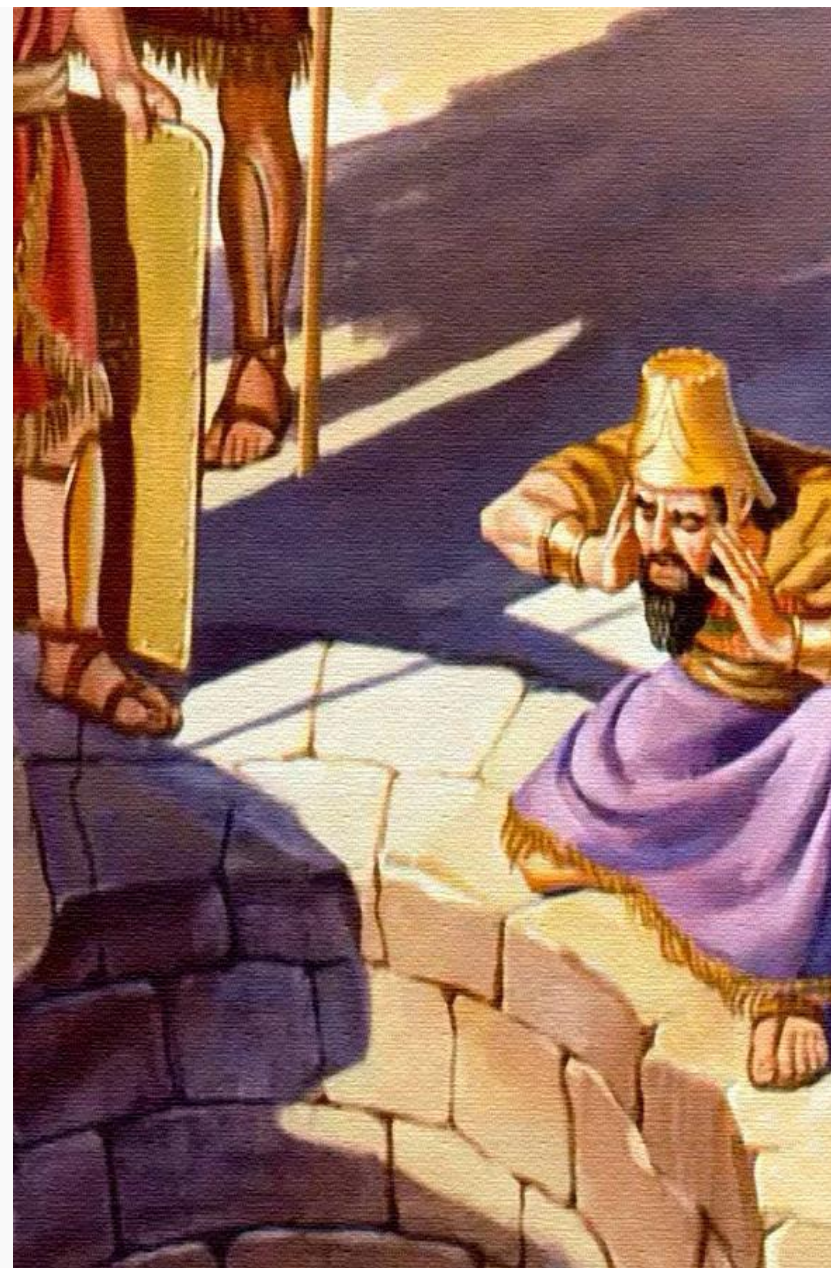


危機 王の呼びかけ ダニエル6:20

その穴に近づくと、王はダニエルに悲痛な声で呼びかけ、こうダニエルに言った。

「生ける神のしもべダニエル*よ。おまえがいつも仕えている神は、おまえを獅子から救うことができたか。」

*王がダニエルを通じて与えられた認識



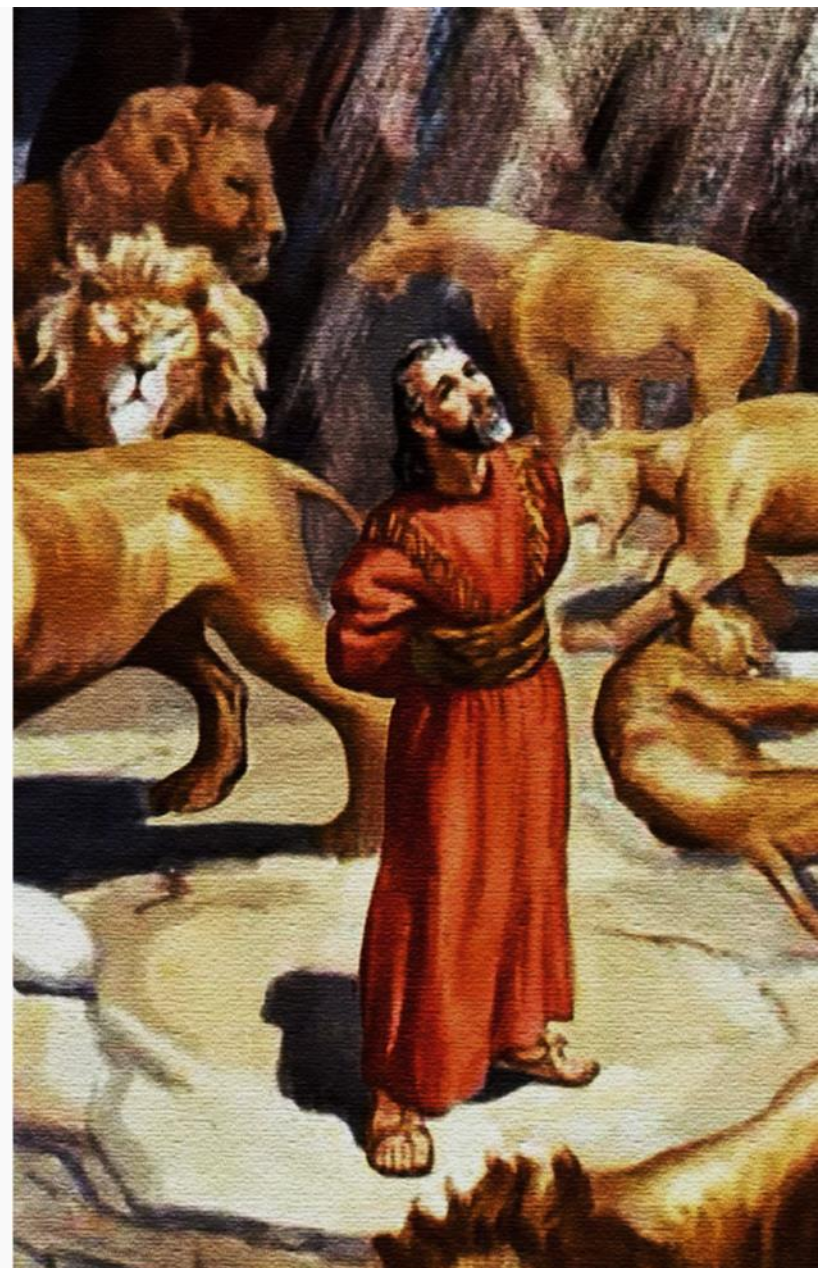
救い ダニエルの返答 ダニ6:21～22

するとダニエルは王に語った。

「王よ、永遠に生きられますように。私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。それは、神の前に私が潔白であることが認められた*からです。王よ、あなたに対しても、私は何も悪いことはしていません。」

*ダニエルの無事が、潔白の証明に!!

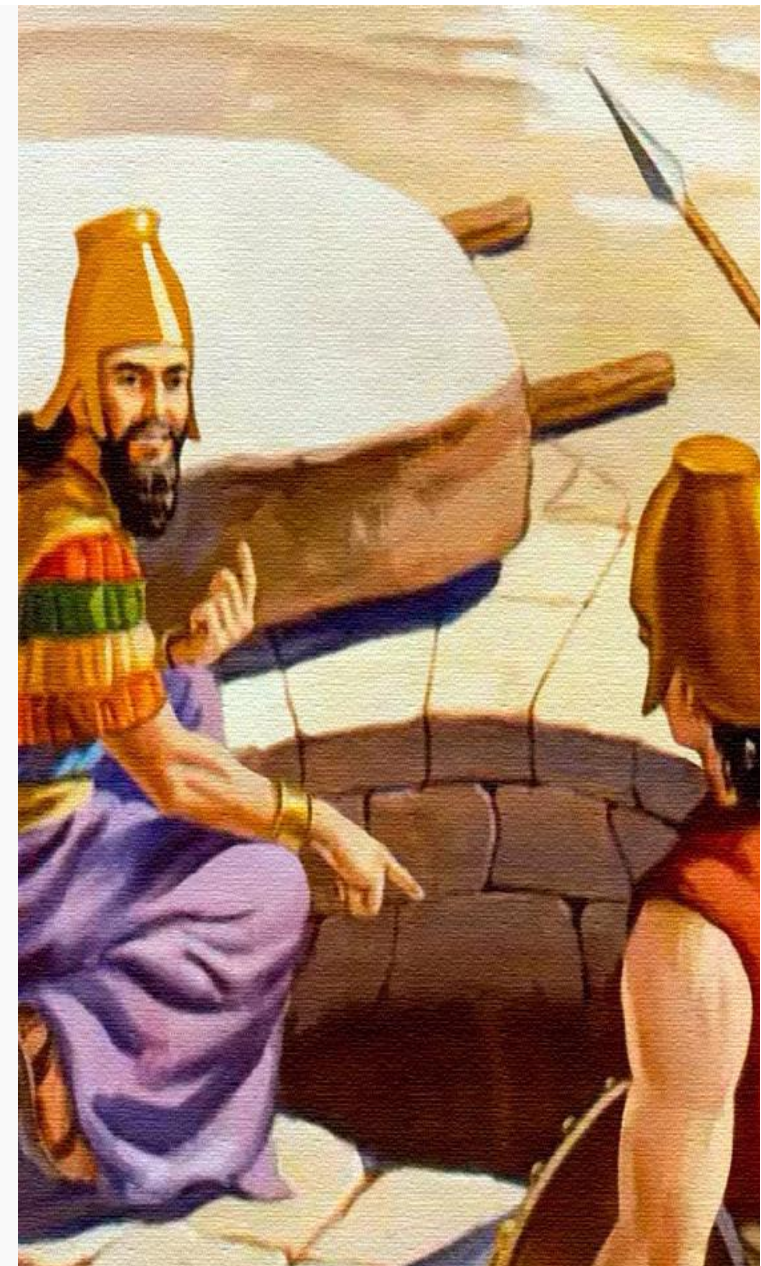
主がダニエルを守られた!!



救い 生還 ダニエル6:23

王は大いに喜び、ダニエルをその穴から引き上げるように命じた。ダニエルは穴から引き上げられたが、彼に何の傷も認められなかった。彼が神に信頼していたから*である。

*無傷が、ダニエルの信仰の証しとなった



裁き 敵対者の末路 ダニエル6:24

王が命じたので、ダニエルを中傷した者たち*が連れて来られて、その妻子とともに獅子の穴に投げ込まれた。彼らが穴の底に達しないうちに*、獅子は彼らをわがものにして、その骨をことごとくかみ砕いてしまった。

*首謀者は家族もろとも刑に処された。

*獅子は飢えきった獰猛な状態だった。

➡際立つダニエルの奇跡的救出!!

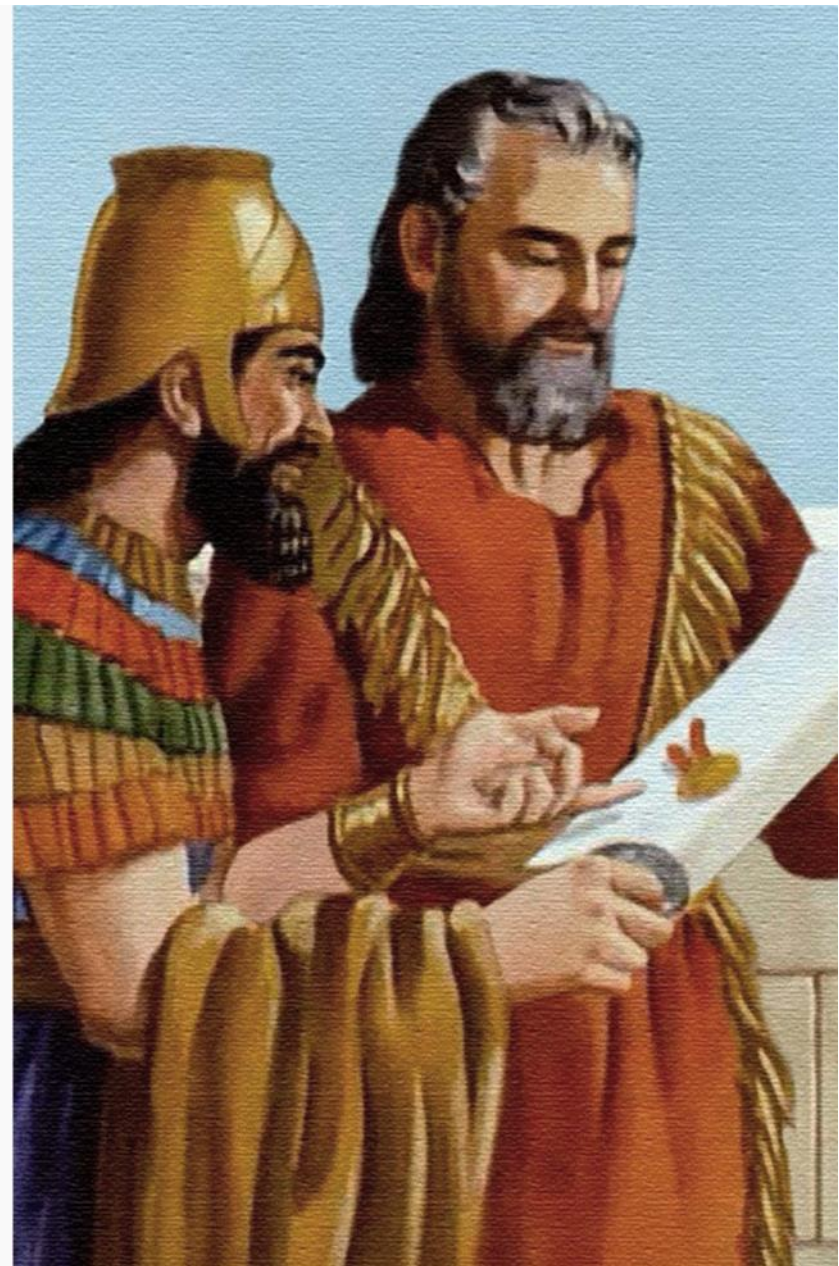


救い 主への賛美 ダニエル6:25～26

それから、ダレイオス王は、全土に住むすべての民族、国民、言語の者たちに次のように書き送った。「あなたがたに平安が豊かであるように。私はここに命じる。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震えおののけ。この方こそ生ける神、永遠におられる方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く*」

*イスラエルの神が誉め讃えられた。

唯一の神の性質が語られ、讃えられる。



救い 主のしるし ダニエル6:27～28

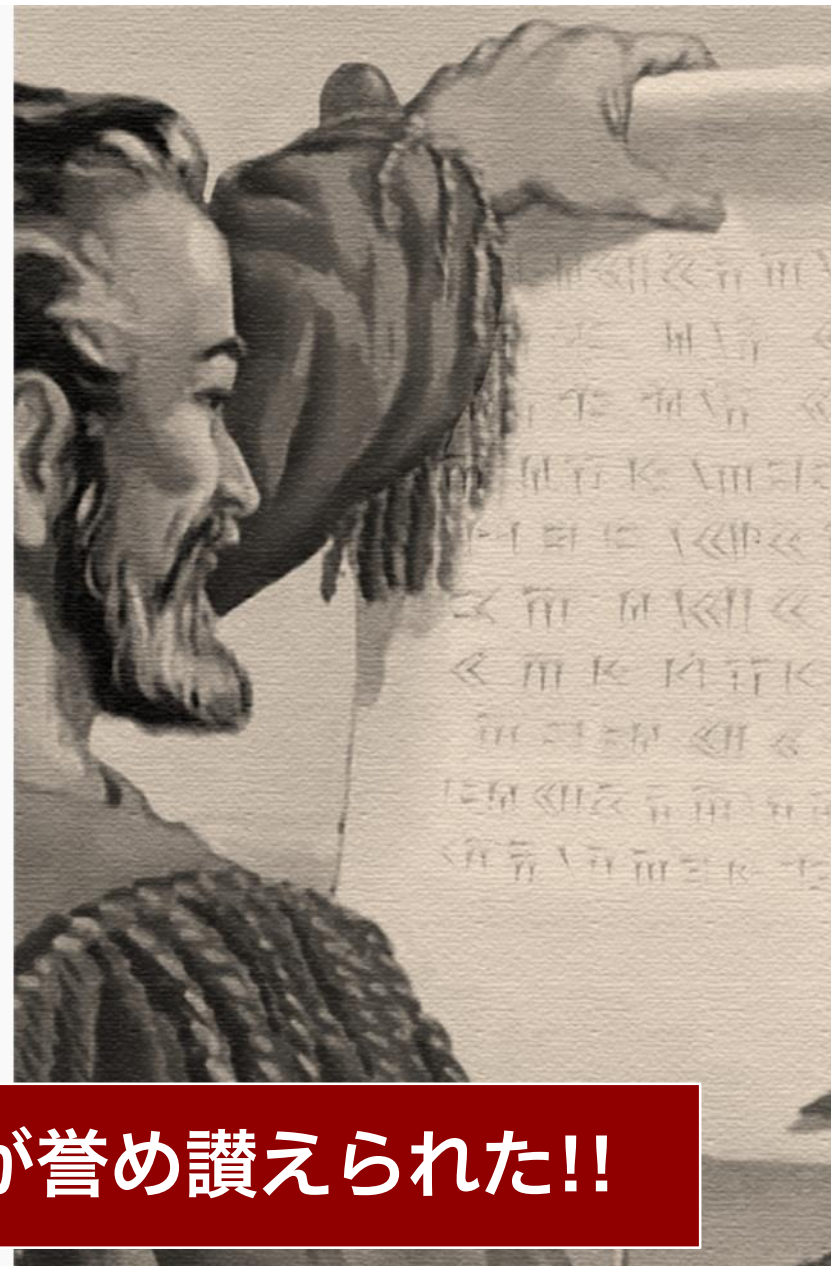
「この方は人を救い、助け出し、天においても、地においても、しるしと奇跡を行われる。実に、獅子の手からダニエルを救い出された。」

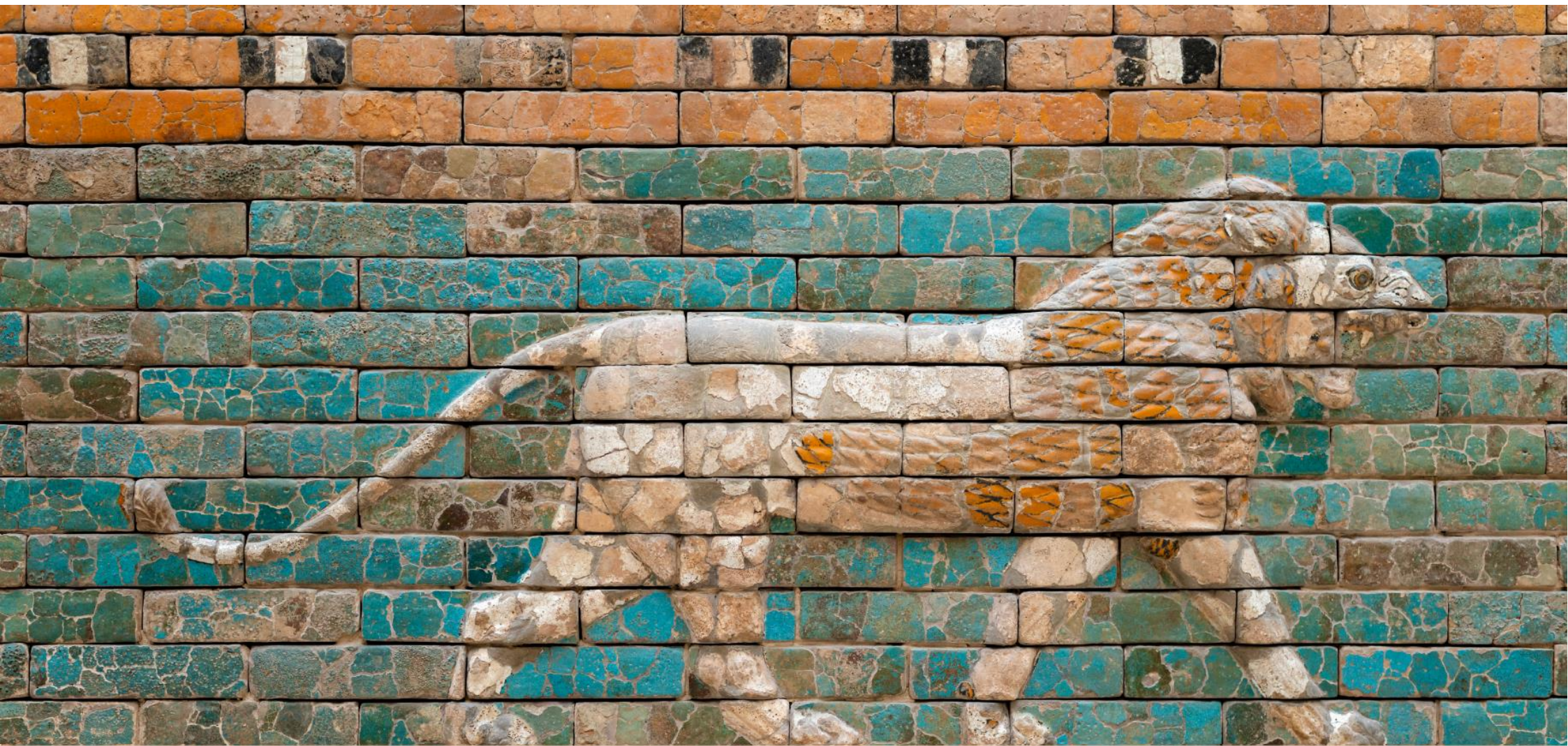
このダニエルは、ダレイオスの治世とペルシア人**キュロス***の治世に栄えた。

*ペルシア全土を支配したのがキュロス

➔エルサレム捕囚民の解放を宣言

ペルシアでもイスラエルの神の御名が誉め讃えられた!!





IV. まとめと適用

史上最大の権威者に仕えよう

バビロン・イシュタル門の獅子

ダニエルに学ぶ、世の権威との接し方

- 原則① …すべての世の権威は、**神が与えた**。
- 原則② …聖書的理想の統治は、**王政**。最も権威あるのは**王**。
- 原則③ …信仰者は、**異邦人の王(権威者)にも従順**であるべき。
- 原則④ …人間の**王(権威)への礼拝は拒否**すべき → 偶像礼拝

礼拝を強要されない限り、世の権威には従うべき!!

イエスに学ぶ 世の権威との接し方

「カエサルのもものはカエサルに、神のもものは神に返しなさい。」

マルコ12:17

■ 皇帝の肖像が彫られた硬貨の使用が、問題に。

➔ **神の権威にも、世の権威にも従うべき**

■ 神の子であり、神殿税を納める必要はないイエスだったが、人々をつまづかせないために、あえて納税(マタイ17:24)

聖書的に、**天皇**の存在をどう考えたらいい？

- 現憲法では象徴とは言え、王としての純粹性は高い。
→ 権威者として敬意をもって従うのがふさわしい。
- 式典への出席、権威者への奉仕、報酬の授与は、問題ない。
参考) 王に仕えたダニエル、3人の友人、モルデカイ…etc
王主催の式典への同行の許可を求めたナアマン將軍
- 天皇を神として礼拝することは、受け入れられない。
参考) 拒否したダニエル、3人の友人、モルデカイ…etc

戦前・戦中の**日本基督教団**の問題とは？

■ 政府の命令で日本基督教団を設立したのが問題？

■ 戦争協力したのが問題？

■ 問題は、天皇への礼拝を受け入れてしまったこと!!

① 戦前からすでに、**自由主義神学(リベラル)**が主流に!!

→ 信仰の土台なき社会正義のもろさ → 安易な妥協

② **終末論が曖昧**。(例外がホーリネス)

→ 終末的希望がもてない。時事問題に流されやすい。

権威への反抗は、不信仰につながる

- 伝統的権威を拒絶する価値観こそ、聖書的には要注意!!

例) 反天皇制、革命思想、共産主義、様々な反権威…etc

権威を打倒してできたのは、より劣化し、腐敗した権威

- 身近な権威者にも、敬意をもって接すべき。

例) 教師、年配者、上司、親、長、議員…etc

- 権威への従順と、神への信仰は、本来自然に両立するもの

権威に傷ついた体験のある人に!!

- 権威に対する強い反抗心の背後に、権威に傷ついた体験が!?
例) 親、教師、指導者…etc
- すべての人は罪人。正しく完全に権威をふるえる人はいない。
→ 不完全な権威の下で、権威を侮るようになることも
- 権威への反抗心から権威者に反発し、裁くなら、
自分自身が権威を誤用し、さらには主に逆らうことに!!

真の権威者である主に対する 健全な恐れを育もう!!

ダニエルに見るメシアの影

- 神の目に正しい人**ダニエル**は、主を礼拝して罪に定められた。死の穴に落とされたが、奇跡的に生還した。
- 罪なき神の子**メシア**は、父なる神に従い、死刑に処せられた。十字架で死に、葬られたが、栄光の体で復活された。
- メシアに信頼する者には、死を超えて永遠の命が約束。来るべき神の王国で、復活の栄光の体が与えられる。

私たちが礼拝すべきは、栄光の主イエス・キリスト

★ 史上最大の権威者に仕えよう ★

「だれも、わたしからいのちを取りません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる**権威**があり、**再び得る権威**があります。わたしはこの命令を、わたしの父から受けたのです。ヨハネ10:18」

■ 自ら命を捨て、再び命を得た。➡執行された史上最大の権威

■ “私の罪のため、十字架で死に、葬られ、復活された”

主イエス・キリストこそ、私たちが従うべき最大の権威者

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

しゅ しんじつ けんいしゃ わたし したが れいはい かた
主イエスこそ、真実の権威者。私たちが従い、礼拝すべき方です。

わたし みわざ な と えいこう おう ふたた こ
救いの御業を成し遂げられ、栄光の王として再び来られます。

きた かみ おうこく わたし えいこう からだ やくそく
来るべき神の王国で、私にも栄光の体が約束されています。

みたま かくしん わたし み しゅ しょうにん つかわ
御霊による確信で私を満たし、主の証人として遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」